



写真・文 タカヤナギユタカ

浅蔵一華さんのカップ&ソーサー 5,250円(税込) 五十吉深香陶窯 小松市八幡己50-1 TEL:0761-47-0061
九谷陶芸村内の九谷陶栄(能美市宇佐野二21 TEL:0761-57-1234)でも販売

一口に九谷焼と言っても、その長い歴史の中で産地は今の加賀市から小松市、能美市、金沢市まで広範囲に広がりが、様々な技法、画法が生まれてきた。

現代の若い作家が作る九谷焼は伝統を意識しながらも伝統に束縛されることなく、現代アートのように遊び心に溢れたものも多くなってきた。

一部には、伝統的な花鳥風月や吉祥文様などをきちんと描かない、あるいは描くことができない若手の作家を批判する向きもあるけれど、でも現在の自分たちのライフスタイルを考えれば、そう簡単に批判はできない。

僕の今の住まいもそうだが、特にマンションやアパートと言った集合住宅のほとんどの家庭には大きな花瓶を飾る床の間はないし、石川県は伝統的にお茶が盛んな土地だけれども、それでも昔と比べれば茶道人口も減少してい

涼しげで優しい 九谷焼のカップ



て、茶道具としての茶碗の需要も減っている。核家族化が進行している中で、昔のような大鉢や大皿が活躍する場面は少ない。畳の部屋や障子がない家も多くなってきた。住環境の中で、花鳥風月や日本の伝統文様のな意匠が部屋の中の色やデザインとマッチしにくくなってきたこともある。

浅蔵一華さんの作品にも、伝統的な九谷焼の印象は薄い。伝統的な九谷焼が基本的に生地の白い部分を残さずに色絵で埋め尽くすのに対して、一華さんの多くの作品はホワイトスペースが多い。そして絵柄は花鳥風月でも伝統的な文様でもなく、一華さんのオリジナル。

浅蔵という名前でおわかりだろうが、一華さんは、三代浅蔵五十吉さんの娘さん。おじいさんの二代浅蔵五十吉さんは、九谷焼作家として初めて文化勲章を受章した巨匠である。そんないわゆる名門に生まれ育っても、彼女は、浅蔵の色も大切だけれど、自分だけの色、作品を作りたいと言う。

表紙・裏表紙写真 タカヤナギユタカ
表紙 山代温泉浴殿総湯
裏表紙 いろは屏風(魯山人作/魯山人寓居跡いろは草庵)



初代もしくは二代須田青華窯の作の吉野屋旅館の浴室タイル(九谷焼窯跡展示館)

加賀日和

vol.13

CONTENTS

P03
これが欲しい! 浅蔵一華さんのカップ&ソーサー

P04
エッセイ「愛しの南加賀」 山代わざおぎ副長 高間 斉さん

P06
山代温泉探訪記

P26
コマカガ日本酒日和 松浦酒造・獅子の里

P28
カフェ日和 ティーハウス ポーチコ

P30
加賀の道楽 北欧の椅子

P32
立ち寄り湯手形